

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成13年度 第6次航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/245

4.4.12

太平洋側メキシコ沖における内部波観察
 林敏史・野田明・浜田浩明・山崎紗衣子・小池義夫
 (東京水産大学研究練習船)

Sight of dimple by Internal wave at West Mexico offshore
 HAYASHI Toshifumi, NODA Akira, HAMADA Hiroaki
 YAMASAKI Saeko and KOIKE Yoshio
 (Tokyo University of Fisheries, Research and Training Vessels)

1. はじめに

2002年2月22日に太平洋 Costa Rica 沖において(Fig.1)沿岸を San Diego (U.S.A) に向け航行中、メキシコの Punta Bunica 南東沖 15mile(7-52'N,83-07'W) ,水深: 約 1500m の海域にて内部波起因によるサザナミを観察した。このときのレーダ図・海域図および魚群探知機の記録に関して記す。

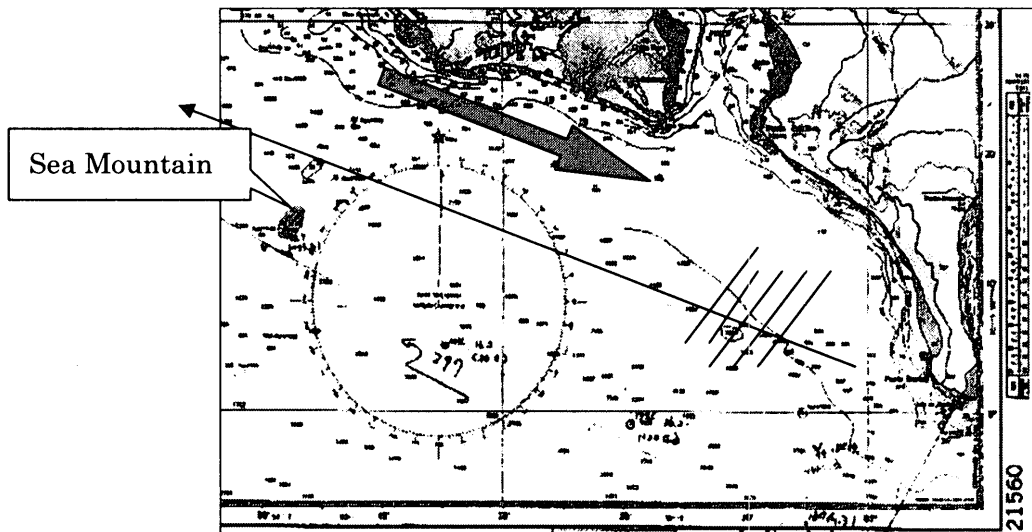


Fig.1 Observed Internal Wave area at DMA chart No.21560

- : Dimple by Internal Wave
- ➡ : Tide direction
- : Ship's Course

2. 今回の内部波について

本船の針路および速力は、Co: 297° 速力 15.9kt、水温 29.6℃、潮流の流向および流速は、139° で 1.4kt(Furuno ADCP CI-35)であった。内部波に

よる Dipple の間隔 (Photo.1) は、0.24mile であった。内部波の高さは、魚探映像から 40m-50m (Photo.2,3) であり、マラッカ海峡での内部波と比較して少し小さめと思われた。内部波は、しばしば急な斜面を持つ海山の存在と強い海流を起因とする場合があるといわれている。今回も内部波による小波の前方約 45mile のところ Punta Salsipuedes 南東沖 17.5mile に周囲約 2.5mile の楕円状バンクまたは海山(水深 12~18m) (Fig.1) があり、これが起因しているように思われるが、海図上の水深情報が不十分な箇所があるため、またその他に海山等浅瀬の存在の可能性などが考えられ確定できない。

3. 内部波資料

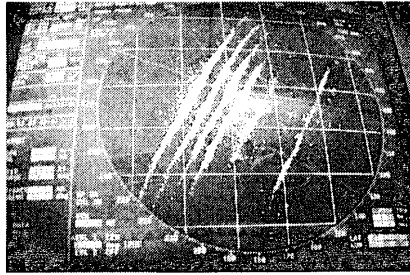


Photo.1 Radar : Atlas9600(3cm 波),
Range:6mile

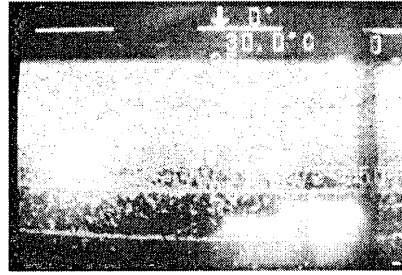


Photo.2.Echo Sounder, Furuno
EF-300 Range:100m

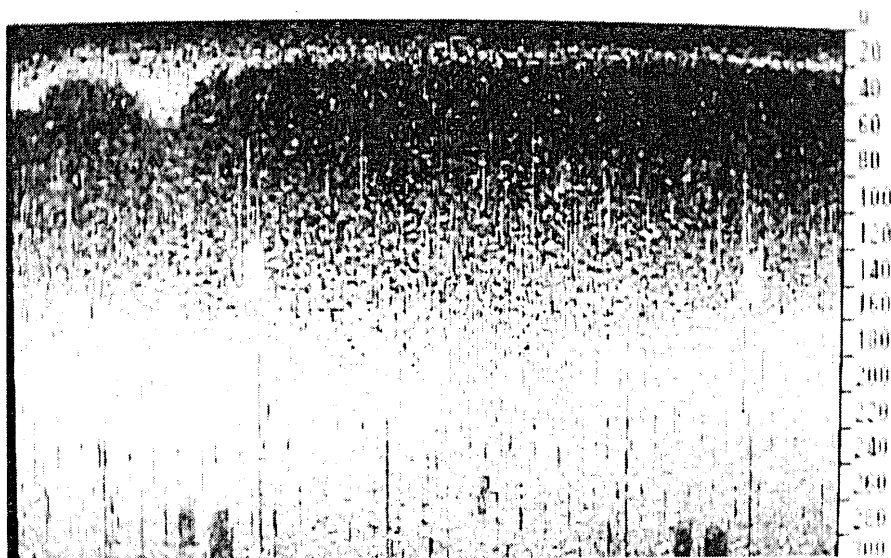


Photo.3 Quantitative Echo Sounder ,KAIJO KF-3000, 70kHz, Range: 300m